

2026年度AO選抜 文学部 国際文化学域
「人文学プロポーズ方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際文化学域	47	40	34

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

提出された出願書類に基づき、ESでは国際文化学域を志望する理由や卒業後の進路計画が明確であるかという点、プロポーザルシートでは国際文化学域に特徴的な教学を理解したうえで入学後に探求したいテーマを記述しているかどうかという点を重視しました。

(2) 解答状況

(1)の評価ポイントに適合する出願書類が多くありましたが、探求したいテーマと国際文化学域の教学内容が一致していない記述や、ある特定の事柄が好きで、単にそれを追求したいというだけの記述もありました。柔軟な思考力と広い視野を備え、豊かな発想力と鋭い分析力を発揮する可能性を感じさせる人物を期待したい「人文学プロポーズ方式」という選抜実施の趣旨から、これらの志願書には高い評価を与えることはできませんでした。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

プレゼンテーションでは、プロポーザルシートの内容および学習・活動計画が分かりやすく提示されているかどうかを、そして質疑応答および面接では、国際文化学域の教学全般に対する理解、学習計画、卒業後の希望進路などを確認しました。

(2) 解答状況

プレゼンテーションにおいても質疑応答および面接においても、高校における探究学習の成果と思われますが、スムーズかつ明瞭に自身の言葉で説明することができる受験生がほとんどでした。ただし、こちらの質問の意図が十分に伝わらず、残念ながら会話がかみ合わない例もありました。

(3) 試験(プレゼンテーション・面接)内容

プレゼンテーション、プレゼンテーションに対する質疑応答、そして書類に基づく面接という構成です。

(4) 出題(プレゼンテーション・面接)の意図

入学後に探求したいテーマと国際文化学域の教学内容との一致だけでなく、本学域が学生に望む発想力、分析力、表現力、主体性などを有しているかどうかを確認することを意

図しています。それと同時に、学域全体の学びへの理解や学生生活（課外活動含む）、卒業後の進路について展望を持っているかどうかも確認しています。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

国際文化学域では文学、歴史、芸術、思想といった人文学の諸学問を分野横断的に学ぶことができます。これまでに培った力をさらに伸ばすため、自身が学びたいテーマに関わる情報収集や語学学習など、今からできることを見つけて着手してもらいたいと思います。それと同時に、自分が追究したいテーマ以外にも目を向ける柔軟性を失わず、一種の視野狭窄に早々に陥る危険を回避してほしいと願っています。

以上